

## 目標達成計画

作成日：平成 22 年 11 月 5 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	ホームの中での医療行為や福祉用具のレンタルができないこと、医療費の減免がないことなど、行政の対応のあり方が問題となり「最期まで見てもらいたい」というニーズがあるにもかかわらず、できないというホーム側の事情、本人、家族、スタッフの想いが交錯してしまうことが課題である。認知症が重度であることから入院治療ができないということも課題であり、どのように治療を受けさせるかが課題である。日勤帯のスタッフ体制はある程度充実しているが、早朝、夜間については体制が薄くなるため、スタッフの不安、恐怖感が大きいことが問題であり、どのように軽減を図るかが課題である。	本人の希望、意向に沿った生活をつくる。人生に悔いが残らないように支援する。家族の想いを成就するような支援をする。スタッフ全員が納得し、それに向かって対応できる姿勢が取れるようにする。	1.インフォームドコンセントが実施されていることを条件にどこまでの医療を求めているのかを確認した上で、ホームの「できること、できないこと」を見極め十分に説明する。「ホーム・在宅・病院」なのか終末期生活支援に関する覚書を取る。 2.本人を中心として「家族」「主治医」「スタッフ」の三者が連携協力をして確固たるチームを組む。 ①スタッフのやる気、自信、不安なところを話し合い不安の軽減が図れるよう勉強会を行い、主治医より予測とその対応について情報を得、落ち着いて利用者と向き合う。 ②日常生活の様子や診察情報を細やかに報告し、スタッフと家族の信頼関係を構築する。 ③主治医と連絡体制が密に取れるように普段からの関わりを大切にし迅速な対応ができるように努める。 ④早朝、夜間について緊急時はいつでも介護スタッフが駆けつけられるよう自宅待機担当を決める。	12 ヶ月
2	5	運営推進会議の委員を地域包括支援センターの職員に委嘱したということで、市担当者に運営推進会議に出席が得られないことが問題である。協力関係をどう築いていくかが課題である。	市町村と共にサービスの質の向上が図れる。	外部評価の結果報告をすると共に、市担当職員との協議を行う。市担当職員に運営推進会議に出席してもらい、会議メンバーと話し合いを行ってもらいホームのサービス向上に向けて応援をしてもらう。	6 ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。